

2014年度 一般1月入学試験

世界史

〔注 意 事 項〕

1. 試験開始の合図があるまで、問題冊子の中を見てはいけません。
2. 問題冊子は18ページ、解答用紙はマーク・シート1枚です。監督者の指示に従って確認しなさい。
3. 問題冊子の印刷不鮮明、ページの落丁・乱丁及び解答用紙の汚れ等に気付いた場合は、手を挙げて監督者に知らせなさい。
4. マークは、マーク・シートに記載してある「記入上の注意」をよく読んだうえで、正しくマークしなさい。
5. 受験番号及び氏名は、マーク・シートの所定欄に正確に記入し、また受験番号欄の番号を正しくマークしなさい。
6. 監督者の指示があつてから、マーク・シートの左上部にある「科目欄」に受験する科目名を記入しなさい。
7. 試験終了後、問題冊子は持ち帰りなさい。

世界史

(60分 100点)

I 北欧諸国の歴史について述べた次の文章を読んで、以下の問いに答えなさい。

(32点)

北欧では、造船術や航海術にすぐれたヴァイキングと総称される人々が8世紀頃から国家建設をはじめた。8世紀にデンマーク、9世紀にノルウェー、10世紀にはスウェーデンの形成がはじまった。一部のヴァイキングは通商、略奪、植民などを目的としてヨーロッパ各地に進出した。フィン人はヴァイキングには分類されないが、8世紀ごろから文化的経済的なまとまりを見せ、13世紀頃にスウェーデンに統合された。

西ヨーロッパにおいてヴァイキングの記録があらわれるのは8世紀後半のことである。ヴァイキングは、793年にイングランド北部のリンディスファーン島修道院を襲撃して以降、イギリス諸島から北フランスにかけての地域を断続的に襲撃し、定住をはじめたものもあらわれた。

西方に向かい定住したのは主にデーン人である。イングランドでは9世紀末にアングロ＝サクソン系のウェセックス王 [1] によって一時撃退されたが、1016年、デーン人の王がイングランドを征服し、デーン朝を築いた。北フランスでは首長 [2] に率いられた集団が西フランク王から封土を受け、ノルマンディー公国⁽³⁾を建てた。この [2] の子孫の [3] が、デーン人勢力の衰退により復活したアングロ＝サクソン王家のイングランドを征服し、 [3] 1世として1066年にノルマン朝を建てた。

東方へはスウェーデン人の一部であるルス人（ルーシ）が向かい、9世紀後半には首長 [4] がノヴゴロド国を建てたとされている。彼の後継者はさらに南下し、南ロシアでキエフ公国を建て、両国はともに土着のスラヴ人たちを支配した。

さて、北欧にキリスト教化の波が訪れるのは9世紀頃といわれているが、これが本格化したのは、ハンブルク＝ブレーメン大司教座がザクセン公家の北進策と結び⁽⁴⁾

つく形で活動した10世紀中頃のことであった。キリスト教化とともに北歐地域は西ヨーロッパ世界に組み込まれていくことになった。

その後、北海、バルト海地域でのハンザ同盟の勢力拡大を受けて、14世紀前半にはスウェーデンとノルウェーとの間で、⁽⁵⁾14世紀後半にはデンマークとノルウェーとの間で、それぞれ短期間の同君連合が成立した。複雑な同君連合関係をまとめるべく、デンマーク女王 は姉の孫にあたるエーリク7世を3国共通の王とし、自身は摂政となって3国に君臨した。1397年にはじまるこの同君連合は、エーリクの戴冠式の地の名称から 同盟（連合）とよばれた。3国は独立性を保ちつつ共通の外交政策をとったが、次第に各国間の利害対立が顕著になっていった。

スウェーデンでは、16世紀にグスタフ1世が王権を強化し、連合からの離脱をはかった。17世紀には、スウェーデンはデンマークとともに三十年戦争に参戦し、北ドイツの沿海地域を獲得して、バルト海の覇権を握った。しかし、1709年にカール12世がポルタヴァの戦いに敗北し、バルト海の覇権をロシアに奪われた。

19世紀に入ると、フランス革命から続くナポレオン戦争は北歐の諸国をも揺さぶった。スウェーデンはナポレオンの意を受けたロシアに、14世紀以来保持し続けたフィンランドを奪われた。一方、デンマークはフランスの同盟国として敗戦を迎えたため、ノルウェーをスウェーデンに割譲することになった。さらにデンマークは、1864年のプロイセンとの戦争でシュレスヴィヒとホルシュタインを失った。⁽⁷⁾しかし、第一次世界大戦後の1920年に北部シュレスヴィヒが住民投票の結果、再度デンマーク領となり、領土を回復した。⁽⁸⁾

一方、ノルウェーは1905年にデンマークの王子カールを国王ホーコン7世として迎え、独立国となった。またフィンランドはウィーン体制以降ロシアとの同君連合のもと、フィンランド大公国とされていたが、 の混乱に乗じ、1917年に独立を果たした。

第二次世界大戦に際して、北歐諸国は様々な立場を採ることとなったが、ドイツによってデンマークが占領されたことをきっかけとして、長きにわたってノルウェーやデンマークによって支配されてきたアイスランドが独立した。

このように北歐の諸国間で現在の配置ができあがったのは20世紀前半のことで

ある。以来北欧諸国は、国内では議会制民主主義を発達させ、福祉国家の建設を目指した。また対外的には、それぞれが独自の外交路線を歩んでいる。

問1 文中の空欄 ～ に入る語句として最も適当なものを、次の①～④の中からそれぞれ1つずつ選びマークしなさい。

- | | | |
|--------------------------------|---------|----------|
| <input type="text" value="1"/> | ① エグバート | ② クヌート |
| | ③ ヘンリ2世 | ④ アルフレッド |

- | | | |
|--------------------------------|------------|----------|
| <input type="text" value="2"/> | ① ルッジェーロ2世 | ② クローヴィス |
| | ③ ロロ | ④ アッティラ |

- | | | |
|--------------------------------|---------|---------|
| <input type="text" value="3"/> | ① ジョージ | ② ウィリアム |
| | ③ リチャード | ④ チャールズ |

- | | | |
|--------------------------------|---------|----------|
| <input type="text" value="4"/> | ① アラリック | ② テオドリック |
| | ③ リューリク | ④ ウラディミル |

- | | | |
|--------------------------------|-------------|------------|
| <input type="text" value="5"/> | ① マルグレーテ | ② クリスチャン4世 |
| | ③ エカチェリーナ2世 | ④ ヴィクトリア |

- | | | |
|--------------------------------|-----------|-----------|
| <input type="text" value="6"/> | ① ロンバルディア | ② コペンハーゲン |
| | ③ カルマル | ④ ベルゲン |

- | | | |
|--------------------------------|-----------|----------|
| <input type="text" value="7"/> | ① 農奴解放 | ② ロシア革命 |
| | ③ 血の日曜日事件 | ④ クリミア戦争 |

問2 下線部(1)に関連して、ヴァイキングのうちノルマン人が9～12世紀の間に
原住地または占領地としなかつた場所として、最も適当なものを、次の①～④
の地図の中から1つ選びマークしなさい。

8



問3 下線部(2)に関連して、9世紀以前のイングランドに関する記述として誤って
いるものを、次の①～④の中から1つ選びマークしなさい。

9

- ① ローマ時代、イングランド付近はガリアと呼ばれていた。
- ② ハドリアヌス帝がイングランド北部にケルト人の侵入を防ぐための長城を築いた。
- ③ ローマ風の都市ロンディニウムがロンドンの起源となった。
- ④ カロリング=ルネサンスを支えたアルクィンはイングランドからアーヘンに招かれた。

問 4 下線部(3)に関連して、次の2つの問い(a), (b)に答えなさい。

(a) この国が建てられた時期は以下のフランク王国分裂後の西ヨーロッパに関する年表中のどこに入るか。最も適当なものを、次の①～④の中から1つ選びマークしなさい。

875年 イタリアでカロリング朝が断絶した。

962年 ザクセン家の王オットー 1世がローマ皇帝の位を受けた。

987年 カペー朝が成立した。

(b) この国の騎士たちがさらに移動して南イタリアに建てた国家を、次の①～④の中から1つ選びマークしなさい。

① ランゴバルド王国

② 東ゴート王国

③ 西ゴート王国

④ 両シチリア王国

問 5 下線部(4)に関連して、8世紀後半にザクセン地方を平定した時のフランク王国の王を、次の①～④の中から1つ選びマークしなさい。

① カール＝マルテル

② ピピン3世

③ カール大帝

④ ハインリヒ1世

問6 下線部(5)に関連して、ハンザ同盟の盟主となったドイツ北部の都市を、次の

①～④の中から1つ選びマークしなさい。 13

- ① リューベック
- ② ブリュージュ
- ③ ベルゲン
- ④ アントウェルペン

問7 下線部(6)に関連して、北方戦争中にロシアが建設し、1712年から首都となった都市を、次の①～④の中から1つ選びマークしなさい。 14

- ① モスクワ
- ② ワルシャワ
- ③ ペテルブルク
- ④ プラハ

問8 下線部(7)に関連して、この戦争を指導したプロイセンの宰相を、次の①～④の中から1つ選びマークしなさい。 15

- ① カヴール
- ② ヒンデンブルク
- ③ ネッケル
- ④ ビスマルク

問9 下線部(8)に関連して、この両地方の処遇をめぐっておこなわれた戦争を、次の①～④の中から1つ選びマークしなさい。 16

- ① ユグノー戦争
- ② ファルツ継承戦争
- ③ プロイセン＝オーストリア（普墺）戦争
- ④ プロイセン＝フランス（普仏）戦争

Ⅱ インドの近現代史について述べた次の文章を読んで、以下の問いに答えなさい。

(36点)

1600年に国王エリザベス1世により、アジア貿易の独占権をもつイギリス東インド会社が設立された。その後、 事件によってインドネシアから締め出されたイギリスはムガル帝国支配下のインドへと矛先を変え、マドラス・・カルカッタに⁽¹⁾拠点を築いた。18世紀に入ると、イギリス東インド会社は、フランスと結んだ土侯たちとのプラッシーの戦いや、ムガル帝国や土侯たちとのブクサールの戦いに勝利して、ムガル帝国の皇帝からベンガル地方の⁽²⁾徴税権や行政権を取得するにいたった。⁽³⁾

ところが19世紀になると、産業資本家が勢力を強めたイギリス本国の議会によって1813年には ，1833年には との間の貿易独占権が停止されたため、イギリス東インド会社は、単なるインド支配のための機関へと変貌した。その間、会社は、傭兵として を大量に雇用してインド各地を平定し、インド全体をイギリスの植民地に変えていった。東インド会社による支配はインドの村落社会に大きな変化をもたらし、インドを一次産品輸出国へと転落させていくことになった。

こうした変化を背景に19世紀後半、インド人傭兵の による反乱がおこった。彼らはムガル帝国の都を占拠し、名目だけの存在となっていたムガル皇帝バハードゥル＝シャー2世を擁立した。しかしイギリス軍の執拗な弾圧に屈し、ムガル帝国は名実ともに滅亡する結果となった。1877年にはイギリスの国王が⁽⁴⁾インド皇帝をかねる形でインド帝国が成立した。インド帝国では、司法・行政の全般にわたり統治体制が整備され、従来の強圧的な統治政策から巧妙な分割統治へと変わっていった。

19世紀後半のインドでは大規模な飢饉がたびたびおこり、農民の反乱が続いた。それにとまなう民族意識の高まりを察知したイギリスは、これをやわらげようと、1885年に での国民会議の創設を認めた。インド国民会議派は、当初こそイギリスに協調的な穏健派が優勢であったが、次第に急進派が勢いを得るようになった。その指導者の一人 はイギリスと対決して、みずからの力で自由

と独立を勝ち取るよう民衆に呼びかけた。このような運動の高まりに対抗すべく、イギリスは1905年に [23] を発表して鎮静化を図ったが、かえって運動の急進化⁽⁵⁾を招くこととなった。そこでイギリスは、翌年インド国民会議派に対抗して親英的な [24] を結成させ、抵抗勢力を抑えようとしたが、結局1911年には [23] を撤回せざるを得なくなった。

第一次世界大戦が勃発すると、インドはイギリスに協力して参戦し、その代わりに⁽⁶⁾イギリスは戦後に自治を与える約束をした。しかし、戦後発布されたインド統治法の内容は自治の約束とはほど遠いものであり、逆にローラット法で裁判抜きの投獄を認めるなど、弾圧が強化されるありさまであった。そのような中で国民会議派の指導者として⁽⁷⁾ガンディーが登場し、ヒन्दゥー教徒とイスラーム教徒がともに参加するサティヤグラハ運動を展開した。さらに1929年に開かれた国民会議派の大会では、急進派のリーダーとなっていた [25] らがプールナ=スワラージ（完全独立）を決議し、運動が再び盛り上がったかに見えた。しかし、この頃から [24] のリーダーであるジンナーが、これらの運動はヒन्दゥー教徒による独善であるとの批判を始め、分裂を強めていった。結局これらの見解の相違から、第二次世界大戦後のインド連邦とパキスタンの分離独立⁽⁸⁾という事態へとつながっていくことになる。

問1 空欄 17 ～ 25 に入る語句として最も適当なものを、次の①～④の中からそれぞれ1つずつ選びマークしなさい。

- | | | |
|----|---------|---------|
| 17 | ① マラッカ | ② パレンバン |
| | ③ アンボイナ | ④ バタヴィア |

- | | | |
|----|--------|------------|
| 18 | ① デリー | ② ラホール |
| | ③ ボンベイ | ④ シャンデルナゴル |

- | | | |
|----|-------|-----------|
| 19 | ① シヤム | ② インド |
| | ③ マラヤ | ④ オーストラリア |

- | | | |
|----|------|---------|
| 20 | ① 中国 | ② インド |
| | ③ 日本 | ④ フィリピン |

- | | | |
|----|----------|---------|
| 21 | ① イェニチェリ | ② マムルーク |
| | ③ アミール | ④ シパーヒー |

- | | | |
|----|-----------|--------|
| 22 | ① ホセ＝リサール | ② ティラク |
| | ③ アギナルド | ④ カーゾン |

- | | | |
|----|-----------|-------------|
| 23 | ① 議会法 | ② サイクス＝ピコ協定 |
| | ③ バルフォア宣言 | ④ ベンガル分割令 |

- | | | |
|----|-------------|---------------|
| 24 | ① 全インド国民協議会 | ② 全インド＝ムスリム連盟 |
| | ③ 英印円卓会議 | ④ サレカット＝イスラーム |

- | | | |
|----|-------------|---------------|
| 25 | ① ラジブ＝ガンディー | ② タゴール |
| | ③ ネルー | ④ インディラ＝ガンディー |

問2 下線部(1)に関連して、イギリスやフランスが拠点を築いた17世紀後半のムガル帝国皇帝アウラングゼーブに関する記述として最も適当なものを、次の

①～④の中から1つ選びマークしなさい。 26

- ① ロディー朝をパーニーパットの戦いで破った。
- ② インド＝イスラーム建築を代表するタージ＝マハルを建設した。
- ③ ムガル帝国の領土が最大となった。
- ④ 都をアグラに移した。

問3 下線部(2)に関連して、17世紀後半にフランスが拠点を築いたインド南東部の都市を、次の①～④の中から1つ選びマークしなさい。 27

- ① ゴア
- ② カリカット
- ③ ホルムズ
- ④ ポンディシェリ

問4 下線部(3)に関連して、徴税権を獲得したイギリス東インド会社が、ベンガル地方などで、旧来の地主支配を認めることで地代収入を安定させようと導入した新土地制度を、次の①～④の中から1つ選びマークしなさい。 28

- ① ザミンダーリー
- ② アター
- ③ ティマール
- ④ ジズヤ

問5 下線部(4)に関連して、次の2つの問い(a), (b)に答えなさい。

(a) 初代インド皇帝となったイギリスの国王を、次の①～④の中から1つ選びマークしなさい。 29

- ① メアリ1世
- ② アン女王
- ③ ヴィクトリア女王
- ④ エリザベス2世

(b) この時期のイギリスの二大政党制をささえ、インド帝国の成立やスエズ運河会社株買収などにも尽力した保守党の首相を、次の①～④の中から1つ選びマークしなさい。 30

- ① パーマストン
- ② グラッドストーン
- ③ ディズレーリ
- ④ ジョゼフ＝チェンバレン

問6 下線部(5)に関連して、1906年、国民会議派カルカッタ大会が開かれ、4綱領が決議されたが、それらのスローガンに含まれないものを、次の①～④の中から1つ選びマークしなさい。 31

- ① スワラージ
- ② 英貨排斥
- ③ 民族教育
- ④ 非暴力

問7 下線部(6)に関連して、同盟国側で参戦したオスマン帝国が、降伏後に連合国側と結んだ講和条約として最も適当なものを、次の①～④の中から1つ選びマークしなさい。 32

- ① サン＝ジェルマン条約
- ② トリアノン条約
- ③ ヌイイ条約
- ④ セーヴル条約

問8 下線部(7)の人物に関する記述として誤っているものを、次の①～④の中から1つ選びマークしなさい。 33

- ① 弁護士として南アフリカで人種差別と戦った。
- ② イギリスによる塩の専売に抗議し、塩の行進を行った。
- ③ インド連邦の初代首相となった。
- ④ 急進的なヒन्दゥー教徒によって暗殺された。

問9 下線部(8)に関連して、インド・パキスタン分離独立時のイギリス首相を、次の①～④の中から1つ選びマークしなさい。

34

① チャーチル

② アトリー

③ ネヴィル＝チェンバレン

④ イーデン

Ⅲ アフリカの民族主義の発展に関して述べた次の文章を読んで、以下の問いに答えなさい。(32点)

近年のアフリカにおける貧困問題や難民問題は重大なものであるが、それらの原因の一つに、民族問題があげられる。新聞やラジオのヘイトスピーチを発端として、1994年に東アフリカの [35] で発生した大量虐殺は、映画の題材ともされ、民族対立の最悪のケースとされている。

- (1) アフリカの民族問題の大きな原因の一つは、国境線にある。特にサハラ砂漠以南のアフリカの国境線は、そこに住む人々の意向とはまったく関係なく、1884年から1885年にかけてアフリカ分割問題を話し合うために開かれた [36]
(2) 会議において、ヨーロッパの列強により確定された原則に基づいて一方的に引かれていった。その結果、アフリカでは国境線によって同じ民族が分断されたり、あるいは敵対する民族が一つの国家に組み込まれたりする事態が生じた。

[36] 会議で決定された*「先占権」の原則は、列強によるアフリカ分割をより活発にさせただけであった。1898年には、イギリスとフランスが南スーダンで衝突するなど、⁽³⁾帝国主義列強によるアフリカの争奪戦は続いた。結局、独立国として20世紀を迎えることができたのはわずか2か国にすぎなかった。このような状況のもとで、第一次世界大戦後のパリ講和会議においてとりあげられた「民族自決」⁽⁴⁾という言葉に触発されたデュボイスが、⁽⁵⁾黒人の権利向上を求めてパリでパン＝アフリカ会議を開催し、その後のパン＝アフリカ主義の基礎をつくった。

第二次世界大戦後、アフリカで最初に独立したのは1951年のリビアであった。その後、1957年のガーナに続き1958年のギニアの独立を経て、17か国が一挙に独立し、⁽⁶⁾「アフリカの年」と呼ばれた1960年を頂点に、⁽⁷⁾1960年代には多くのアフリカの植民地が独立を達成した。これは脱植民地化という第二次世界大戦後の国際的な趨勢を背景として実現したものである。一方、アジア・アフリカにおける新興独立国家の登場は、これらの国々の間に地域を越えた連帯を生み出し、それが1955年4月に開催された [37] 会議として結実したといえよう。そしてこれらの諸国の連帯がナセル、⁽⁸⁾ティトーそしてネルーの呼びかけによる1961年の [38] 会議の開催へと結びついた。アフリカでは、1963年にエチオピアの首都アジスアベバで「アフリカはひとつ」をスローガンにOAU (アフリカ統一機構)が設立され、⁽⁹⁾

パン＝アフリカ主義が形あるものとなった。

続いて、アジア・アフリカの発展途上国は先進諸国との経済格差の是正を目指して国連をも動かし、1964年にはジュネーブで第1回国際連合貿易開発会議が開催された。1973年の第4次中東戦争の勃発にともない、アラブ諸国の石油戦略の発動によって資源ナショナリズムが高揚する中、1974年に国連の資源問題特別総会で「新国際経済秩序樹立に関する宣言」が採択された。これは、経済発展に取り組むアジアとアフリカの発展途上国の主体性を世界に訴えたものであった。

しかしながら1970年代に入ると、資源産出国や著しい経済成長を遂げた新興工業国と、停滞もしくは衰退した地域との間に、いわゆる 39 も指摘されるようになった。そうした中で1980年代以降多くのアフリカ諸国は、国際復興開発銀行（世界銀行）や国際通貨基金の支援を得て、経済の自由化を実施していった。また政治面においても、1991年に 40 大統領のもとでアパルトヘイトを撤廃した南アフリカ共和国に代表されるように、1990年代以降、「民主化」を進める諸国が多く見られるようになった。

現在のアフリカでは、かつてのビアフラ戦争やコンゴ動乱、また近年のスーダン内戦などにみられるように、民族問題に資源などの経済問題が絡む対立や紛争がよりクローズアップされるようになってきている。

※「先占権」：その地域を先に占領した国が領有することができるという権利

問1 文中の空欄 ～ に入る語句として最も適当なものを、次の①～④の中からそれぞれ1つずつ選びマークしなさい。

- | | | |
|-----------|---------|--------|
| 35 | ① ルワンダ | ② ウガンダ |
| | ③ タンザニア | ④ マラウイ |

- | | | |
|-----------|---------|--------|
| 36 | ① ミュンヘン | ② ベルリン |
| | ③ パリ | ④ ロンドン |

- | | | |
|-----------|---------|---------|
| 37 | ① ジャカルタ | ② パレンバン |
| | ③ バンコク | ④ バンドン |

- | | | |
|-----------|--------------|-----------|
| 38 | ① アジア太平洋経済協力 | ② ジュネーヴ |
| | ③ ブレトン＝ウッズ | ④ 非同盟諸国首脳 |

- | | | |
|-----------|--------|--------|
| 39 | ① 東方問題 | ② 中ソ対立 |
| | ③ 南南問題 | ④ 東西対立 |

- | | | |
|-----------|---------|---------|
| 40 | ① マンデラ | ② デクラーク |
| | ③ アラファト | ④ ムバラク |

問2 下線部(1)に関連して、以下に挙げる民族問題または民族対立に関する記述として最も適当なものを、次の①～④の中から1つ選びマークしなさい。

41

- ① 国連による提案を受け、イスラエルが建国されたが、反対する諸国によって第2次中東戦争がおこった。
- ② クロムウェルによるアイルランド征服での厳しい統治・収奪が、後のアイルランド問題の一因となった。
- ③ 1900年代初頭に、バルカン半島でパン＝スラヴ主義とパン＝イスラーム主義が激突したことによって、ヨーロッパの秩序は不安定になった。
- ④ ユーゴスラヴィアでは、指導者アデナウアーの死後、民族・宗教対立が深まり、内戦状態となった。

問3 下線部(2)に関連して、この時の会議に関する記述として最も適当なものを、次の①～④の中から1つ選びマークしなさい。

42

- ① この会議はビスマルクが主催した。
- ② 会議の結果、コンゴはイギリス領となった。
- ③ この会議で、サン＝ステファノ条約が破棄された。
- ④ この会議で、セルビアの独立が認められた。

問4 下線部(3)の衝突事件が起こった地名を、次の①～④の中から1つ選びマークしなさい。

43

- ① テーベ
- ② ハルツーム
- ③ カイロ
- ④ ファショダ

問5 下線部(4)に関連して、この2か国の組み合わせとして最も適当なものを、次の①～④の中から1つ選びマークしなさい。 44

- ① エジプト・ローデシア ② エチオピア・リベリア
- ③ モロッコ・ケニア ④ アルジェリア・ジブチ

問6 下線部(5)の言葉は1918年1月に発表された「14か条の平和原則」に含まれている。「14か条の平和原則」に関する記述として誤っているものを、次の①～④の中から1つ選びマークしなさい。 45

- ① 第一次世界大戦中に、レーニンが発表した。
- ② この原則に従って国際連盟が結成された。
- ③ 戦争の原因となる秘密外交の廃止が盛り込まれた。
- ④ 民族自決原則が適用されたのはヨーロッパのみであった。

問7 下線部(6)に関連して、1957年のガーナ独立時の指導者を、次の①～④の中から1つ選びマークしなさい。 46

- ① ベンベラ ② エンクルマ
- ③ セク＝トゥーレ ④ ルムンバ

問8 下線部(7)に関連して、ローデシアは、1965年に独立したが、1980年に黒人主体の国家に生まれ変わり、国名を改称した。この新しい国名を、次の①～④の中から1つ選びマークしなさい。 47

- ① ジンバブエ ② エリトリア
- ③ ナミビア ④ チャド

問9 下線部(8)に関連して、ナセル大統領がおこなったこととして最も適切なものを、次の①～④の中から1つ選びマークしなさい。 48

- ① サダトを追放して大統領に就任した。
- ② エヴィアン協定でアルジェリアの独立を認めた。
- ③ スエズ運河を国有化した。
- ④ イギリス系石油企業を国有化した。

問10 下線部(9)に関連して、2002年、OAUが発展的に解消され、新たに結成された地域統合体の略称を、次の①～④の中から1つ選びマークしなさい。 49

- ① ASEAN
- ② NAFTA
- ③ AU
- ④ OAS

問11 下線部(10)に関連して、コンゴ民主共和国の元の宗主国としてコンゴ動乱に介入した国を、次の①～④の中から1つ選びマークしなさい。 50

- ① ベルギー
- ② オランダ
- ③ フランス
- ④ イギリス